社会へのBridge 卒業生×在学生 OB&OG INTERVIEW VOL 8

追手門学院大学の卒業生を訪ねて

［ interview：永松 雄太／藻井 恵介 ］

第35期 卒業生

読売新聞東京本社 読売中高生新聞編集室 記者　大原 圭二 氏

Profile ｜ 大原 圭二 氏

1981年大阪府生まれ。2004年人間学部社会学科（現・社会学部社会学科）卒業。業界紙の記者から、2009年読売新聞東京本社に転職。福島支局、長野支局、東京本社地方部内信課、東京本社社会部を経て、2018年6月より現職。

若者にとって、社会の窓となるような新聞をつくり続けたい

永松◉ お仕事の中身を教えてください。

大原◉ 社会部の所属で、「読売中高生新聞」の記者として編集に携わっています。主な担当はスポーツ記事ですが、他の分野も手掛けています。

永松◉ どのような新聞でしょうか。

大原◉ 文字通り中高生を対象とした新聞で、タブロイド判の週刊紙です。中高生に向けて、わかりやすく面白い記事を届けることに気を配っています。そのため、写真やグラフを多く使うなど、本紙とは異なる工夫を心掛けています。中高生が「世の中ってこうなっているのか」と新鮮な驚きを抱いてくれるような、心に残る記事を届けるのは非常に難しいことであり、日々悩みながら編集にあたっています。

永松◉ 支局も経験されていますね。

大原◉ 初任地の福島支局では、東日本大震災の取材に携わり、被災者の方々の話に耳を傾けました。次に赴任した長野支局では、御嶽山の噴火災害の記事を書きました。

永松◉ 記者をめざしたのはいつ頃ですか。

大原◉ 高校時代からめざしていました。ちょうど進路を考えていた時期に、新聞紙上で警察官の不祥事が盛んに報道されていました。記者なら違法行為だけではなく、法の枠組みから出た理不尽な出来事を指摘できると思ったのです。最近の事例では、医学部の不正入試問題もそれに近いですね。実はこの問題を最初に報じたのは読売新聞です。

永松◉ 追大に入学されたのは、記者になるためですか。

大原◉ そうです。そのために社会学を専攻したいと考え、追大を選びました。非常に印象に残っているのが元新聞記者の先生による「取材の仕方・記事の書き方」をテーマにした授業です。記者経験者から直接学べる機会は、貴重だったと思います。

永松◉ 社会学を専攻したことは、記者になるうえで役立ちましたか。

大原◉ 私の場合は記者として就職できたのでよかったのですが、社会学が記者になる近道とは一概には言えません。政治や経済の勉強も有効だし、スポーツ記者ならスポーツ経験が活きる。留学で国際感覚を磨くことも武器になる。目標は同じでもそこに向かうには様々な道があります。

永松◉ 記者のやりがいは何ですか。

大原◉ 知らないことを知る機会に恵まれている仕事だということです。あとは担当の中高生新聞を多くの人に読んでもらえること。新聞離れが進む今、同紙は部数を伸ばしています。若者にとって、社会の窓となる新聞をつくり続けたいと思います。

永松◉ 後輩へのメッセージをお願いします。

大原◉ 大学生の皆さんも、ぜひ新聞をたくさん読んでください。新聞にはニュースだけではなく、社会人として考え方の基礎となる情報が詰まっています。私としても、読まれる紙面づくりをしていきます。

取材を終えて

初めて取材の主担当をさせていただきました。相手は相手で言いたいことがあるし、自分は自分で訊きたいことがある。まるで取材はインタビューアーとインタビューイーの交渉のようだと思いました。想像以上に難しかったです。

経済学部 経済学科 3年
永松 雄太さん

編集後記

Bridgeの制作には1年生の秋学期から参加しましたが、雑誌編集だけでなく、どうすれば話しやすいか、チームで一つのことを進める難しさなどを経験できました。多くの先生方や学生に取材でき、自分の知らなかったこともたくさん学ぶこともできるので、興味のある人はぜひ一度見学に来てください。スタッフは随時募集しています。（改井 孝太朗）

学生企画広報スタッフ

改井 孝太朗［マーケティング学科 4年］
西井 亮［アジア学科 4年］
弘山 彩［地域創造学科 4年］
山本 隼平［マーケティング学科 4年］
松本 卓朗［経営学科 4年］
藻井 恵介［経営学科 4年］
岩田 悠暉［経済学科 3年］
吉原 久美［地域創造学科 3年］
安原 杏奈［地域創造学科 3年］
野口 佳純［経済学科 3年］
仮谷 優花［マーケティング学科 3年］
兵庫 沙耶花［マーケティング学科 3年］
永松 雄太［経済学科 3年］
市川 大輝［心理学科 3年］

「BRIDGE」制作メンバー［学生企画広報スタッフ］1・2年生 大募集中！

当マガジン「BRIDGE」を一緒に作ってみませんか？ 興味のある人は気軽に見学しに来てください！

●見学の申し込み・お問い合わせ／茨木安威キャンパス1号館2F 総務室 広報課［ 担当：足立／前村 ］（または下記メールアドレスにご連絡ください）

［ スタッフ会議 ］ 毎週木曜日／12:00〜14:00頃まで（昼休み限定の参加もOK・他団体所属の学生も歓迎します）

※メールでの応募・お問い合わせはこちらまで ▶koho@otemon.ac.jp ［ 担当：足立／前村 ］

QRコードからメールをお送りいただけます▶

Bridge OTEMON GAKUIN UNIVERSITY VOL.14

発行日／2019年4月1日　発行／追手門学院　総務室広報課・学生企画広報スタッフ
〒567-0008　大阪府茨木市西安威2-1-15　TEL.072-641-9590／FAX.072-641-9645　編集協力／株式会社キュービックデザイン　追手門学院大学ホームページ　https://www.otemon.ac.jp
［通巻52号］　※1999年6月1日第1巻発行（当時の誌名は「OTEMON PRESS」）、2012年10月より「BRIDGE」へと誌名変更。

Take Free ご自由にお持ち帰りください

OTEMON Bridge

学生・教員・職員のためのインタラクティブ・マガジン［ブリッジ］

vol. 14

SPECIAL FEATURE

特集：**「追大WIL」始動。**

学ぶことと実践はイコールの時代へ。

連載：**社会へのBridge ［卒業生×在学生］**

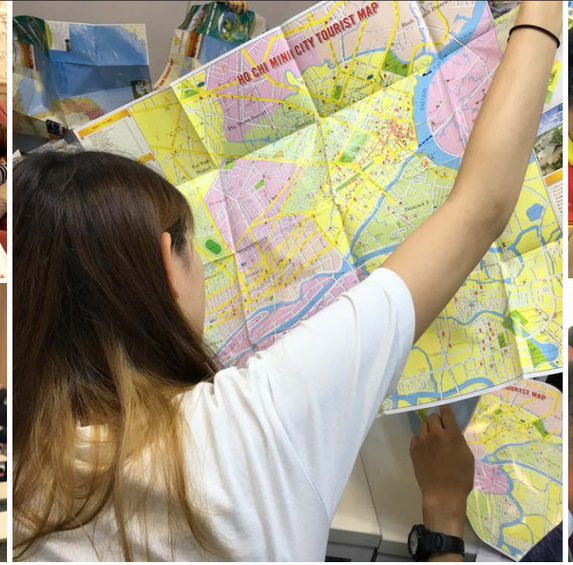
Vol.08｜大原 圭二 氏［ 読売新聞東京本社 読売中高生新聞編集室 記者 ］

連載：**「想像もしなかった自分史」を始めた学生の肖像**

Vol.09｜経営学部 マーケティング学科 4年　片桐 樹生さん［ 追手門学院大学 応援団リーダー部 主将 ］

想像もしなかった自分史がはじまる
追手門学院大学（おうてもん）

自分史上、想像以上！



[support：改井 孝太朗／吉原 久美／野口 佳純]

「追大WIL」始動。

WORK IS LEARNING

学ぶことと実践はイコールの時代へ。

「実践即学修・学修即実践」スタイル

技術革新や情報化、グローバル化の進展を背景に、社会は劇的に変化しています。
様々な局面で予想が困難な時代を迎えた今、
大学は新たな学修パラダイムへの移行が不可欠です。
そのため追大では、これまでの「学修→実践」という学修と実践を分断したモデルから
いち早く脱し、「学修と実践を同時に経験し、それを繰り返す」学修モデル、
つまり「行動して学び、学びながら行動する」スタイルに転換。
それが「追大WIL（Work-Is-Learning）」です。
企業や地域社会、国際社会との連携とともに展開されるこの学びのもと、
自ら挑戦へと踏み出す力、試行錯誤のなかで経験を学びに変える力を身につけます。
「追大WIL」は追大生一人ひとりが当事者。
学生のプログラム参加率100%をめざします。

行動して学び、学びながら行動する。

「追大WIL」では学生生活からビジネス、地域、国際社会における現実的課題の解決に取り組みます。下記はほんの一例。今後、様々な活動をWILプログラムとしてプロデュースし、推進することで、あらゆる学生が、あらゆる場面で行動して学び、学びながら行動する「ワーク=ラーニング」を拡大していきます。

WIL 学修モデル
LEARNING MODEL

協働プロジェクト
企業や自治体等における現実の課題や事例を素材とし、具体的な問題解決に向けたチーム学修を展開。

フィールドワーク
現在のモノ、コト、人に触れながら、調査、研究、課題解決に取り組む学修手法を積極的に導入。

インターンシップ
企業・団体等での就業体験を核に、事前・事後研修を含む総合的な実習プログラムを全学年で実施。

国際交流
学内での異文化体験から留学、海外インターンシップ、ボランティア等、多様な国際交流の機会を創出。

スチューデントジョブ
学生が大学の運営業務や教育に関わることで、社会人としてのルールやマナーを含む職業意識を育成。

サポート体制 support

WILコンセプトに基づくプログラムを全学で展開するため「WILコーディネーター」を配置。プログラム開発、外部とのマッチング、事前・事後学修、経験のポートフォリオ化など、教育効果を最大化するサポート体制を構築します。

WIL TEAM
プログラムで連携・協働する企業、地域社会、国際機関等をWILパートナーとして位置づけ。実施にあたっては、学内の「WILコーディネーター」が学生・教員とWILパートナーをつなぎ、現場での学修・実践を徹底します。

WIL PORTFOLIO
学びの成果を次の挑戦につなげ、その蓄積を将来の財産とするために、「BYOD」の導入と「追大e-NAVI」を活用し、学生一人ひとりの活動履歴を蓄積するポートフォリオを作成。

WIL STUDIO
WILプログラムを実践していく新たな拠点として、新キャンパス（茨木総持寺キャンパス）1階に、自由な討議やグループワーク、プレゼンテーションのしやすいコミュニケーション空間「WIL Studio」を設置します。

海外におけるビジネス体験で、人にはない経験値を身につける。

プログラム 実践型海外インターンシップ in ベトナム

グローバルな事業を展開する日本企業から課せられたミッションを遂行する、実践型インターンシップです。企業は本学卒業生が経営する株式会社フジオフードシステム。ミッションはベトナムにうどん店を展開するための現地調査です。渡航前に海外事業の責任者から直接ニーズをヒアリングし、学生たちが調査活動の企画を立案。前年度がうどんの認知度と嗜好調査であったことを踏まえ、2018年度は出店場所の立地調査という一歩前進したテーマを立てました。

前半の1週間はホーチミンでビジネストレーニング。後半の1週間はハノイに移り、ベトナムの経済、歴史、文化などを学ぶ特別授業を履修するとともに現地学生の協力を得ながら調査活動を実施。多くの日本企業が注目するアジアの新興国・ベトナムの可能性を肌で感じます。帰国後、同社へのプレゼンテーションおよび学内の報告会でミッションは完了。参加した学生たちは成果達成力、マルチタスク対応力など、グローバルに活躍するためのマインドとスキルを磨いています。

自分にとって、壁を破った体験だった。

岡室 美樹さん　国際教養学部 国際教養学科 4年

海外での多くの人たちとの協働。そのなかで埋もれる不安もありましたが、自分のポジションを見いだせたことで、自身の強みを発見できました。とてもタフなミッションでしたが、やり遂げることができ、壁を破ったという達成感があります。

「仕事の報酬は仕事」学生の提案により進化を続ける。

プログラム ガンバ大阪 インターンシップ

「ガンバ大阪長期実践型インターンシップ」は、ガンバ大阪の本拠地・市立吹田サッカースタジアムの開業と同時に、2016年度から始まった取り組み。「J1チーム最大級のインターンシップ」という触れ込みでスタートしました。業務内容はガンバ側の要望に基づき、試合会場で追大生たちが各ポイントに立ち、来場者のチケット確認と誘導などを担当しています。しかし、学生たちの提案により徐々に業務範囲を拡大しており、現在ではファンクラブへの勧誘、イベントブースの運営などのほか、試合日以外には地元でのホームタウン活動にも協力しています。

本インターンシップのテーマは「仕事の報酬は仕事」。ガンバ大阪の社員目線で、スタジアム運営における課題を発見して、提案につなげることで仕事の幅を広げてきました。これからも本インターンシップは進化を遂げ、設立当時に掲げた目標「日本一のおもてなし集団」に近づいていきます。

4月にガイダンスを実施。興味のある人はガイダンスに参加を!

世の中に当たり前は存在しない。

永野 智哉さん　経済学部 経済学科 3年

受け手からは当然のように思えるサービスも裏方の努力に支えられています。だから世の中に当たり前のことなんて何もない。そう感じられるようになりました。あとは、苦手だった敬語表現もガンバさんとのやり取りで上達しました。

NEW LEARNING STYLE

実践を通じて学生の主体性を育む追大の教育プログラム

WIL PROGRAM

WILプログラムに参加している学生たちの一部を紹介

地域社会から海外まで、活動の場を広げ続ける「WILプログラム」。
参加した学生たちは、実社会の課題解決に挑むことで大きく成長しています。
自分を進化させるチャンスが身近にある。それが追大生であるということです。

「独立自彊・社会有為」を体現する人材を育成する。

プログラム リーダー養成コース(OLS)

リーダーシップを発揮するために必要な知識、技能、態度を身につけ、本学の教育理念である「独立自彊・社会有為」を体現できる人材育成を目的に設置されました。学部の枠を超え、選抜試験を通過した学生が各種プログラムを履修します。軸となるのは「リーダーシップゼミナール」です。本学教職員が、それぞれの専門分野を講義する特別講義。リーダーシップに関する基礎理論を学修します。「わかる」から「使うことができる」段階への発展をめざし、他者にわかりやすいセミナーをチームで作成する合宿研修および最終発表で実践力を高めます。
さらに、身につけたリーダーシップを実践する場として、国内外の課外プログラム「リーダーシップ実地基礎演習/発展演習」があります。サイパンでの二国間プログラム、マレーシアでの多国間プログラムなどがあり、OLSのコース修了要件になっています。

組織あってのリーダーという気づき。

藤村 武瑠さん　経営学部 マーケティング学科 3年

もともと一人で仕事を片付けてしまうタイプだったのですが、リーダーシップについて学ぶうちに、一人では何もできないことに気づきました。リーダーは組織が生み出す存在。皆がいるからこそ、自分の仕事も成り立つのです。

地元企業の運営にゼミ生が協力。アイデアをプレゼンテーション。

プログラム 企業連携プロジェクト

地域創造学部の今堀ゼミでは、大学近隣に残る里山に棲みついていたニホンミツバチの飼育・養蜂をしながら、学生が主体となったプロジェクトを企画・運営する「追大ミツバチプロジェクト」を実施してきました。このプロジェクトを知った茨木市の企業、株式会社ユニバーサル園芸社から協力依頼があり、2018年度の秋学期より新たな連携がスタートしています。

始まりは同社が運営するガーデンセンター「the Farm UNIVERSAL」内に「いちご園」をオープンするにあたり、イチゴの受粉に必要なミツバチの飼育・養蜂のノウハウを借りたいという依頼でした。それを受け、今堀ゼミの2年生たちが取り組みを開始させましたが、ミツバチに限らず同社の運営に多角的に協力する流れとなり、学生がそれぞれに練り上げたアイデアをプレゼンテーション。「親子イベントの開催」や「収穫したイチゴのビジネス展開」など、学生の視点で様々な提案を行いました。

自分の視点で課題発見に努めた。

速水 愛海さん　地域創造学部 地域創造学科 3年

実際に現場を見て、自分たちの視点で提案する取り組みでした。何が足りないのか、どうすればよくなるのかを考えることを通じて、課題発見力、問題解決力が身につきました。これまで経験したことのない学修スタイル。勉強になりました。

全学に広がるWILプログラムは100以上!

その他のプログラム一例

- ■普代村村づくり支援プロジェクト
- ■フィールドワーク写真展(The Backside of City)
- ■東日本大震災被災地での聞き取り調査
- ■門真市役所まちづくりワークショップ
- ■いこいこ未来塾協働プロジェクト
- ■「いばらきバルフェスタ」学生企画プロジェクト
- ■ゼミでの日経STOCKリーグ参戦
- ■舞台表現プロジェクトSTEP
- ■北摂エリアマッププロジェクト
- ■追大ミツバチプロジェクト
- ■学内合同企業懇親会
- ■学生記者がゆく「キャンパるかんさい+」
- ■ガンバ大阪スタジアムエコ推進活動
- ■あおぞら財団まちづくりフィールドワーク
- ■心理実践インターンシップ
- ■見山の郷商品開発プロジェクト
- ■伊丹市立図書館実践型インターンシップ
- ■地域創造実践演習(パーマカルチャー)
- ■追大グッズプランコンテスト
- ■宇治市役所×国際日本学科キャリアデザイン論
- ■デートDV意識調査&啓発活動
- ■ユーモアスピーチコンテスト
- ■追手門UI論
- ■学友会追風
- ■大阪府中央卸売市場との連携プロジェクト
- ■入学前教育プロジェクト

etc.

女子サッカー部
全国大会ベスト8に躍進!

関西学生女子サッカーリーグ戦を見事突破し、2年ぶりに全日本大学女子サッカー選手権大会（インカレ）に出場。12月23日に行われた初戦は3−2で勝利。続く2回戦ではPKまでもつれ込む激闘を制し、創部6年目、2回目の挑戦にしてチーム史上最高位のベスト8まで勝ち進みました。この試合は惜しくも敗れましたが、着実に力をつけていることを示した女子サッカー部。彼女たちの今後の活躍から目が離せません!

追大チームの試合結果

1回戦 12/23(日)	2回戦 12/25(火)	3回戦 12/27(木)
VS 八戸学院大学	VS 静岡産業大学	VS 帝京平成大学
3-2	1-1 (PK: 5-4)	0-4
WIN	WIN	LOSE

Otemon's
HIGH LIGHT
注目のニュースをお届け!

追手門学院
創立130周年記念式典を開催!!

2018年11月7日、大阪城ホールを会場に約1万人の来場者を集め、追手門学院創立130周年記念式典を行いました。大学応援団による演舞、小学生による和太鼓の演奏、幼小中高大合同チアダンスチームによる演技、同じく合同吹奏楽団による演奏など、こども園から大学まで全ての学院生が連動した圧巻のパフォーマンス。その他にも追手門学院が取り組む教育内容の紹介や卒業生が経営する企業ブースの設置など追手門の魅力が全て詰まった式典となりました。

追手門学院大学 学友会

「追風」 OI KAZE

2017年12月に発足した学友会組織「追風」は、従来の学生のみによる学友会を、教職員も関わる三位一体の組織に再編成。学生が教職員とともに学生をサポートするという組織は、他大学でも類例のない体制です。

「追風」は追大生全員が会員です。そのことは浸透してきましたか?

大西◎今年度は部活の統括に力を注いできましたので、部活生の認知度は向上したと感じます。他方、一般学生の帰属意識はまだまだ薄いという問題があります。そのため新入生オリエンテーションの場で追風の説明と勧誘を実施しました。しかし、そもそも興味のない学生には響かない。そこは大変難しい課題です。

前岡◎今は部活生の各1年を運営委員に選出していただくようにしており、実際に委員になることで、仕事内容や雰囲気を知ってもらうことにしています。その結果、自分も入りたいという声は広がっていると感じています。

大西◎全学生に帰属意識を持ってもらうのが最も難しい仕事で、1年間で完結できるものではありません。後の世代が引き継いで、長期的に解決してほしいと思います。

初代3役という大役を、無事に果たし終えた3名

追手門学院大学 学友会追風 組織図

- 追風総会
  - 運営委員会
  - 教職員
  - 学部クラス連合
    - ●全学部・全学科
  - クラブ・サークル連合
    - ●トップアスリートグループ●アスリートグループ●文化グループ●応援団●サークルグループ●プランニンググループ
  - 将軍山祭プロジェクトグループ

※2019年1月現在

新組織の立ち上げと運営。苦労も多かったのでは?

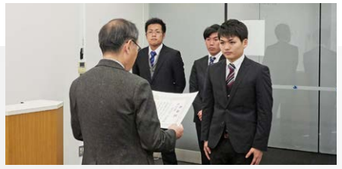
大西◎旧組織はすでに形骸化していて、そこにメスを入れた川原学長の考えに僕らは賛同したのですが、居心地のよかった人からは反発もありました。なぜこの組織でないといけないのか。その意識を共有する擦り合わせに苦労しました。

前岡◎当初、一番苦労したのは人手がなかったこと。結局、強制の形を取りましたが、これがよかったかどうか。結論はまだ先になるでしょう。

橋本◎文化系団体からは数多くの疑問の声があがり、発足から夏にかけての期間、ぶつかり合いも相当ありました。とくに3局※を解体することへの反感が強く、粘り強く話し合うしかありませんでした。

大西◎我々3人でよく言っていたんです。最初の1年は嫌われ者やで、と。

※3局とは「音楽局」「一般芸術局」「学術局」の総称。



追風の功績が評価され学生表彰で「特別賞」を受賞した

就任して1年間どんな仕事に取り組みましたか?

大西◎委員長として一番やりたかった「第1回関西学生サミット」を企画し、実現できました。将軍山祭の日に公開形式で、追大を含む5大学の代表者がサミットを開きました。すでに継続が決まっていて、来年度は龍谷大学さんで7月に開催されますので、後輩に託します。

前岡◎副委員長になって着手したのが、体育系団体の所属者数の減少対策です。その一つとして活気づけのため、応援活動を盛んにする施策を打ちました。各団体から応援団に応援を要請するしくみをつくりましたが、あまり活用されませんでした。善後策として、全チームのホームゲームの日程を目立つ場所に公開しています。

橋本◎旧学友会の解体で、文化系団体が発表の機会を失っていました。そこで文化系団体だけでなく、一般学生や地域の方々も対象にした長月祭というイベントを開催しました。来年も同様のイベントを地域の方に向けて実施する予定です。

大西◎次の幹部たちは、我々の築いた型にはまることなく、自分たちのカラーに合った組織づくりをしてくれることを願っています。

※学年・役職は取材時（2019年1月）のものです。

学生が教職員とともに行動する組織「追風」が追手門を変える。

初代副委員長｜橋本 修平さん
経営学部
経営学科 4年

初代委員長｜大西 惇さん
心理学部
心理学科 4年

初代副委員長｜前岡 佳樹さん
国際教養学部
国際教養学科 4年

試合に負けたときは、応援の力不足を感じる。

経営学部 マーケティング学科 4年
［追手門学院大学 応援団リーダー部 主将］
Tatsuki Katagiri
片桐 樹生さん

創部直後にいきなりの大仕事

リーダー部初代主将の片桐さんは、スポーツの強豪校として知られる香川県・尽誠学園高校の出身。高校時代、県下屈指の大応援団を主将として率いた経験を買われ大学側がスカウト、紙本竜太郎（経済学部4年）さんと二人で創部メンバーとなりました。「大学から応援部をつくってほしいとお話をいただき、ゼロから団体を立ち上げることに魅力を感じました」。創部間もない2016年7月、リーダー部にいきなりの大仕事が待っていました。大学創立50周年記念祝賀会。この日はリーダー部のお披露目でもありました。短い準備期間のなか、演舞の型なども新たに考案しなければなりませんでした。「学院歌の振りは通常、先輩から受け継いでいくものですが、自分たちは何もないところからのスタート。それでも紙本が歌の中身をしっかり解釈してくれたので助かりました。あと、こだわったのはエール。追手門の○（オー）の形を振りに取り入れました」。当日、片桐さんの演舞に会場はおおいに盛り上がり、初仕事は上々の滑り出し。吹奏楽団、チアリーダー部と共に応援団の結成を高らかにアピールしました。「入学直後の立て込んでいた時期。準備の段階では心が折れそうになりましたけど、本番は緊張感を楽しめました」。

リーダー部は単独で動くこともありますが、基本は吹奏楽団、チアリーダー部の3団体で応援団として活動します。体育系クラブの応援をはじめ、オープンキャンパス、さらには地域貢献などと幅広く活躍中です。「体育系クラブに限らず、文化系クラブでもどこでも要請があれば駆けつけます」と片桐さん。応援の力が必要な団体は声を掛けてみては?

根本の使命は大学の知名度向上

地域における活動で現在定着しつつあるのは、茨木市の地区敬老会。地元の追大に応援団ができたと聞きつけた同会から招かれ、今では開催日の半年以上前から予約が入るという好評ぶり。「応援団の役割は人を元気づけること。地域社会でもそれができているとすれば嬉しく思います」。

体育系クラブの応援では、勝利のためにひたすら全力を尽くします。勝ったときは喜びを分かち合い、負けたときは「応援の力が足りなかった」と悔しさを噛み締めます。応援は大変なハードワーク。リーダー部のメンバーも普段から体力錬成を怠ることはありません。「運動部員の皆さんと同じ練習をしていないと応援する資格はありません。走り込みや筋トレに取り組んで心身を錬磨しています」。

創部後もっとも大きな舞台となったのが2018年11月に挙行された追手門学院130周年記念式典。来場者約1万人の大イベントで、応援団はオープニングとフィナーレの大役を果たしました。「普段は拍手なのに、式典では歓声があがりました。学院歌のときは気持ちよく振り続けていましたね。リハーサルの苦労が吹き飛んだし、後輩にも『良かったぞ!』と言葉をかけました」。

創部から3年あまりで、式典を2度こなすなど着実に実績を重ねてきたリーダー部。それでも「組織はまだ未完成。部のルールづくり、技術の向上、部員数の確保など課題ばかりです」と片桐さん。「リーダー部の根本的な使命は大学の知名度向上。部として社会人や関西、関東の他大学との交流も増え、そこには少し貢献できたかもしれません」。今後のリーダー部の活躍に、皆でエールを送りましょう。

上林 功 准教授

社会学部 社会学科

ISAO UEBAYASHI

［interview：改井 孝太朗／兵庫 沙耶花／永松 雄太］

スポーツの力で市民の幸福度をあげる。

株式会社環境デザイン研究所勤務を経て、2014年株式会社スポーツファシリティ研究所設立。スポーツ庁 スタジアム・アリーナ改革推進のための施設ガイドライン作成ワーキンググループメンバー、経済産業省 魅力あるスタジアム・アリーナを核としたまちづくりに関する計画策定等事業選定委員、一般社団法人運動会協会理事なども務める。2018年より社会学部准教授。博士（スポーツ科学）Ph.D.。

数少ないスポーツ施設の専門家

政府によるスポーツの成長産業化が推し進められるなか、その中核と位置づけられる「スタジアム・アリーナ改革」が各地で展開されています。スポーツ施設の専門家である社会学部の上林先生は、その担い手の一人。スポーツ施設のコンサルタント会社経営と大学教員という二足のわらじを履き、有識者としてスタジアム・アリーナ改革を推進する省庁の委員などにも名を連ねています。

「30歳代という異例の若さで経済産業省やスポーツ庁の事業をお手伝いさせていただけたのは、スポーツ施設、つまり建築とスポーツ両方の専門家が数少ないという現状があります。追大に来たのも、この分野の人材を育てたいから。地域のためになるスポーツのあり方を考える学生を育てることは、よりよいスタジアム・アリーナづくりの第一歩になると思っています」。

上林先生は大学院卒業後、建築界の泰斗である仙田満氏が代表を務める設計事務所に勤務。会社内でスポーツ施設の担当となり「広島市民球場（Mazda Zoom-Zoom スタジアム広島）」や「尼崎スポーツの森」といった様々なスポーツ施設の設計・監理を手掛ける業績を残しました。仙田氏は国内を代表する建築物を数多く生み出していますが、実は遊具設計の第一人者。広島市民球場における数々の仕掛け——例えばチケットの席種に関係なく1周できるコンコースやパフォーマンスシートの設置などには、その知見が盛り込まれています。野球場の常識をくつがえした広島市民球場は、子どもたちが夢中になる遊具の発想で設計された施設なのです。

野球観戦の概念を変えた広島市民球場は、単なる球場にとどまらない

日本の施設は「技術的段階」どまり

仙田氏は、子どもたちを惹き付ける遊具について「遊具構造における段階的発展」という研究結果を残しています。それは「機能的段階」にはじまり「技術的段階」、さらには「社会的段階」へと変化してく経過をたどるといいます。上林先生は「滑り台を例にとると、単に滑って遊ぶのは『機能的段階』。そこに頭から滑るなどの創意工夫を入れて楽しむのが『技術的段階』。普通はここまで。名作は、例えば海賊ごっこの拠点にするといった、遊びの核となる社会性を帯びる『社会的段階』にまで発展してきます」と説明します。

これはあらゆる施設に適用できる理論ではないでしょうか。上林先生は続けます。

「日本の多くのスポーツ施設は技術的段階には達しています。でもそこで止まっている。今、省庁と一緒に進めようとしているのは、スポーツ施設をコミュニティの核となるような存在にできないかということ。実際、海外にはスタジアムが公園そのもの、町そのものとして機能している事例があります」。

最近、上林先生はNPO法人と共同でブラジルの貧困地域にサッカー場をつくる仕事に取り組みました。強盗や薬物犯罪と隣り合わせの地域。サッカー場自体は簡素なものですが、その場が子どもの命を守る拠点として機能することをめざしています。

「スポーツの経済効果はよく話題になります。でもそれだけでは寂しい。スポーツの力で市民の幸福度をあげたり、コミュニティを形成したりできるはず。今はこの研究に興味を持っています」。

新キャンパスの発展は学生次第

いよいよ新キャンパスが始動しました。スポーツ施設の専門家には、このキャンパスはどう映るのでしょうか。

「Academic Arkの周りに広がる外部空間をどう使うかが重要です。地域連携の交流エリアとしてどういう使い方があるのか。アイデアを学生が提案できる仕組みをつくるべきですね」。

新キャンパスが「社会的段階」へと成熟していくためには、何より学生自身がキャンパスの運用に関心を持つことが欠かせないようです。

スタッフの視点から

取材で感じたことはスタジアムを地域コミュニティの核となる社会的段階まで成長させ、地域住民に「行きたい」と思わせることの重要性です。後日、広島市民球場に行く機会がありましたが、そのための仕掛けが多々見られました。（改井 孝太朗）

Spot Light for OTEMON STUDENTS

追大生にスポットライト

interview & text：岩田 悠暉／野口 佳純／改井 孝太朗／藻井 恵介／　photo：藻井 恵介／竹内 淳

Vol.6［趣味］

趣味
アイドルコピー

「純アス」の今後に注目してね！

野内 双葉さん
心理学部
心理学科 2年

❶もともとアイドルが好きで、最初にファンになったのが元AKB48の河西智美さん。河西智美さんへの憧れから、追大入学後、自ら「純白のアスター（通称:純アス）」というダンスサークルを立ち上げたのがきっかけです。

❷ステージに立って多くの人に見てもらえることです。メンバー同士が全員仲良しなので、活動するたびに楽しい時間が増えていきます。活動日は毎週水曜日に加え、イレギュラーで月に2〜3回集まっています。

❸月によってバラバラなので、はっきりとわかりません。

SPECIAL QUESTION
グループとしての今後の目標は?
固定ファンを増やしていくことです。また、夏場に大会の予選会があるので、そこで最高のパフォーマンスを披露したいと思います。

趣味
音読

台詞をカラダで味わう醍醐味です！

永松 雄太さん
経済学部
経済学科 3年

❶テレビやアニメの声優さんの真似をし始めたのがきっかけです。最初に台詞を声に出して真似たのが「リーガル・ハイ」というドラマ。中学3年生のときでした。

❷実際に声に出すことで息づかいやリズムを体感し、セリフの面白さを実感することができます。声に出して読む。簡単そうに思うでしょうが、練習しなければうまく音読できるようにはなりません。

❸身の回りにあるもので音読するので、限りなくゼロに近い金額です。

SPECIAL QUESTION
今までで一番いいと思ったセリフは?
中高生のときたくさん音読をしていた『NARUTO-ナルト-』という漫画の「もう一度君の居る世界を創ろう」というセリフです。

趣味
モデル

ヘア雑誌に掲載されることも！

中村 里菜さん
国際教養学部
国際教養学科 4年

❶インスタグラムに写真をあげていたら、美容師さんや美容学生さんから撮影のお声がけをしてもらえるようになったことです。

❷撮影されることで、自信を持てるようになります。また、現場でプロのモデルさんを身近で見て美意識を高められるのに加え、美容師さんと美容学生さん独特のクリエイティブな発想を学ぶことができます。

❸サロンのモデルをしていると、逆に撮影のギャラをいただけたり、交通費を出してくださったりします。

SPECIAL QUESTION
モデルの特権はありますか?
好きなときに髪色を無料で変えられます。月に何回も変えられるので飽きません。ヘア雑誌に載せてもらえることもあるんですよ!

趣味
動画編集
SNS投稿

アジアへ撮影の旅に出ます！

真子 尚斗さん
国際教養学部
国際教養学科 4年

❶ハワイに行ったとき、写真だけじゃなく試しに動画を撮り始めたら思いのほか楽しかったことです。

❷動きを伴う動画だからこそ、リアルさを伝えられます。写真は一瞬一瞬を写し出すことで美しさを表現できますが、動画はシーンの一部始終を見せることができ、写真にはない臨場感を出せます。

❸初期費用でカメラは大体8万円、ドローンは12万円。1ヶ月でかかる金額は1万円くらいです。動画編集ソフトなども必要になります。

SPECIAL QUESTION
今後どんな動画を撮ってみたい?
いろんな国に行って撮影すること。ネパールからブータン、タイ、カンボジア、マレーシアなどを巡って撮影する計画があります。

趣味
マジック

人を騙して喜ばれる仕事★

牧 陽平さん
地域創造学部
地域創造学科 4年

❶高校生の頃、父親にカードが消えるマジックを教えてもらい、そこからハマりました。今では「マッキー」の名で、梅田のマジックバーで手品を披露しています。ぜひお越しください。

❷合法的に人を騙せ、非日常を味わってもらえるところに魅力を感じます。騙すことで、楽しんでいただければ嬉しく思います。

❸月によって異なりますが、トランプ代で2000円弱の出費があります。トランプの価格は、高額なものから100円程度のものまでピンキリです。

SPECIAL QUESTION
何種類くらいできますか?
トランプだけで30種類ほどでしょうか。数えたことはないですが、小さいマジックを含めるとかなりの数ができそうです。

趣味
プログラミング

思い描いたとおりに動くと気持ちいい！

河原 楓さん
経営学部
経営学科 4年

❶「他の人と違うことをやりたい」「手に職をつけたい」と思っていたところ、就活講座などを行っている会社でたまたまプログラミングに触れる機会があり、そこから興味を持ちだしたことが始まりです。

❷基本的にはコードと呼ばれるプログラム専用の言語を使って構築するのですが、思い描いたとおりの見た目や動きが再現できた時はすごい達成感を味わえます。

❸1ヶ月980円のプログラミング学習用の有料サイトを使っています。

SPECIAL QUESTION
今までで1番難しかったのはどんなプログラミングですか?
ホームページはHTMLと呼ばれる特殊なコードで作るのですが、デザインどおりの見た目に完成させることが難しかったです。

もはや特技? こんなことにハマっている追大生を紹介。

皆さんには今、夢中になっているものはありますか?
ここに紹介する追大生たちは、趣味という自分の世界を持つ人たち——。
ハマることがある生活は楽しいとばかりに、ますますオタク道を邁進する
趣味人たちにスポットライトを当ててみました。

❶ 趣味にハマったきっかけはなんですか？　❷ 魅力はなんですか？　❸ ひと月にかける金額はどのくらいですか？

趣味
ひらパー

ひらパーは人生のパートナーです★

古本 さよさん
心理学部
心理学科 3年

❶ひらパー歴は1歳の頃から。ベビーカーに乗って見物していました。小学校高学年からあまり行かなくなっていましたが、お姉ちゃんがバイトを始めたことにより再熱しました。

❷キャラクターのショーです! キャラは5人いて、その中でもトランプという緑色のキャラが推し。キャラと写真を撮るのも楽しいです。お勧めのアトラクションは「パチャンガ」です!

❸1万7000円の年パスを持っているので行き放題です。交通費くらいかな。

SPECIAL QUESTION
今年は何回くらい行きましたか?
ちゃんと数えていて、半年で45回です。最近忙しくて頻度が減っているので、春休みは週1〜2回は行きたいです。

趣味
DJ

DJは人と人をつないでくれる！

宇山 社志さん
地域創造学部
地域創造学科 4年

❶クラブミュージックがもともと好きで、大学2年生のときにDJをしている知り合いに誘われたのがきっかけです。

❷初対面の人とでも音楽を通じて仲良くなることができる、DJならではのコミュニケーションに魅力を感じています。

❸DJが音源を集めるサイトで、1曲あたり230円ほどかかります。自分が曲を持っていないジャンルのイベントに出向くときは大変。何十曲と購入することもあり、数万円もの出費になってしまいます。

SPECIAL QUESTION
普段はどこで活動していますか?
月曜はシュバル（心斎橋）、金曜はキツネ（京阪三条）というクラブで「ウッピー」として活動中。詳しくはインスタ[woopyofficial]を!

2色ケース

加地 龍也さん
経済学部
経済学科 3年

インターネットで買いました。値段は5000円くらいです。ポイントは持ち物との色の相性。最近よく使うカバンが紺色、財布が茶色なので、この2色ケースとよく合います。次は手帳型のスマホケースがほしいですね。手帳型ならカード収納スリットも付いているし、学生証などと一緒に持ち歩けるので、便利だなあと思っています。

プロテクターケース

小林 史門さん
地域創造学部
地域創造学科 2年

地元のヴィレッジヴァンガードで売っていたのが目に留まりました。2700円と価格もリーズナブル。気に入ったのが深みある青のカバー。落ち着いた大人チックな雰囲気が自分の好みに合っています。使いやすさも兼ね備えていて、重過ぎず手にフィットする感じもいい。今度買い替えるときは、黄色なんかいいなあと考えています。

OIDAI STUDENTS FASHION

OTEMON COLLECTION VOL.8

｜特集｜スマホケース｜

interview & text：吉原 久美／安原 杏奈／改井 孝太朗／仮谷 優花
photo：吉原 久美

ロブスターケース

岡田 万由さん
経営学部
マーケティング学科 4年

これは友だちからの誕生日プレゼント。PLAZAで買ってきてくれたそうです。人とかぶらないし、初対面の人でもこのケースがきっかけになって話が弾むこともあり、コミュニケーションツールにもなっています。大きくて実用的ではありませんが、これだと絶対にスマホをなくすことがありません。次のケースも話題性重視でいきます。

透明ケース+バンカーリング

楠 真弥さん
地域創造学部
地域創造学科 4年

好きなポイントはシンプルなデザインと、衝撃吸収ケースだから安心感があること。背面がクリアなので、Appleマークが見えるのも気に入っています。バンカーリングは別で購入。リングを付けてからはスマホの転落を防げるし、立てかけて使えるのでYouTubeが観やすくなりました。次はカード類を収納できる手帳型にしたいです。

トイカメラ風ケース

田中 佑佳さん
経済学部
経済学科 4年

ネット通販で見つけ、「かわいい!」と思って購入。値段は1000円くらいでした。スマホケースなのにカメラに見えて、ストラップホールが付いていてひもの取り外しができるところが気に入っています。知人からもとても好評です。ひも付きは何かと便利で、動きの多いときは首に掛けられます。次は鏡付きのケースがほしいです。

OTEMON NEWS AND TOPICS

[追手門ニュース&トピックス]

Topics

キャンパス全面禁煙へ

追手門学院大学は、全ての学生、教職員の疾病予防及び、クリーンな教育研究環境の提供を目的に、2019年開設の茨木総持寺キャンパス内及び周辺を全面禁煙としました。同様に茨木安威キャンパスにおいても2020年から全面禁煙とします。日本国内のみならず、国際社会の喫煙規制化の中においても活躍できる学生の育成を目指していきます。学生の皆さんの理解と協力をお願いします。

Topics

茨木阪急本通商店街「冬のガンバる市」に映像作品を出展!

2018年12月1日に、茨木阪急本通商店街にて開催された「冬のガンバる市」に本学マスコミ研究会の部員たちが、商店街活性化を目的とした映像作品を制作し、ガンバる市の当日に上映会を開催しました。また、ベンチャービジネス研究所の学生メンバーたちは、日本料理の『成田屋』と共同開発した「鶏すき焼き缶詰」の試食会を開催し、会場へ訪れた方々へ振舞いました。

地域創造学部稲葉ゼミの学生たちは行事全体の運営を支えていました。

試食会を担当した経営学部2年生(当時)の仮谷優花さんからは、「地域の人々と交流しながら楽しく取り組めました。今までゼミ活動では先輩についていく形でしたが、今回からリーダーとして自分たちで考えて準備、実行ができて良い経験になりました」と感想を話してもらいました。

Event

キャンドルナイト2018開催!

2018年12月12日(水)、本学キャンパスでキャンドルナイトを開催しました!

消灯と共に約3,000個のキャンドルの灯りが大学を包み込み、学生スタッフの個性溢れる作品や趣向を凝らしたオブジェの灯りで幻想的な一夜となりました。

人権について考えよう

「被害者の味方になる」こと

副学長 リスク管理特命業務担当　豊島 眞介

新聞社の社会部記者をしていた数十年前、全国の中学校は校内暴力の嵐に見舞われていた。「暴力 卒業」というタイトルの連載記事取材に大阪府内の中学校を回る中で耳慣れない言葉に引っかかった。「はみごにする」。先生方や生徒たちに取材してようやく分かったのが、はみ出しっ子にする、つまりは仲間はずれにするという意味だった。校内暴力の季節は終わりに近づき、もっと陰湿ないじめが広がり始めていた。

当時も、リスク管理担当をしている今も、学校現場からいじめが消えることは無い。先生方から相談の電話がよくかかってくる。そのときに私が一番大切にしているのが「被害者を最大限尊重する」「被害者の味方になる」ということだ。

いじめの被害者は、いじめられたことをなかなか口外しない。そのために当初は加害者の言い分が通ることもある。男子生徒にありがちだが、「言いつけるのは卑怯」という感覚があるからだ。さらにはいじめられた惨めさから抜け出せず、心を閉ざしてしまうこともある。直接の暴力でなくても、仲間はずれにされ、無視されることは「クラスの中に誰も味方がいない」という恐怖感、孤立感につながる。その挙句に起きているのがいじめによる自殺ではないか。

転勤で徳島市にいたときの話。長女が通った小学校では毎朝、教頭先生が校門に立って子どもたち一人ひとりに「おはよう」と挨拶していた。そして元気の無い返事をする子がいると、担任に「あの子の様子がおかしい。やさしく話を聞いてあげて」と指示していた。こどもの心に寄り添う姿勢に感動したし、この学校になら娘を預けても安心だと心強い思いをしたものだ。

どんないじめにも兆候はある。単なるけんかと楽観していたら集団いじめだったりする。はじめの段階で被害者にまずは信頼してもらい被害の実態をつかむ。そして被害者目線で事案全体を見回してみる。被害者に「味方」だと思ってもらったところから解決の糸口が見えてくる、と、私は信じている。

Topics

第2回「思わず笑顔になるコンテスト」表彰式を開催!

2017年度に新設されて、今年で2年目となる「思わず笑顔になるコンテスト」の表彰式が2019年1月26日に大阪通天閣STUDIO210(つうてん)にて行なわれました。「つぶやきの部」「作文・エッセイの部」「写真の部」の三部門で前年を上回る8,356作品の応募の中から、選ばれた優秀作品の朗読と賞状の授与が行なわれました。

Sports

少林寺拳法部 全国大会大学生団体演武の部 第3位

2018年10月27日〜28日に高崎アリーナで開催された「2018年少林寺拳法全国大会 in ぐんま」の大学生団体演武の部で第3位の成績を収めました。

Topics

インターカレッジコンペティション2018で3位入賞!

2019年1月23日に行なわれた「インターカレッジコンペティション2018」にて社会学部上林ゼミの谷生海人さん(当時3年生)を代表とするチームが参加し、17チーム中の3位となるスポーツコミッション関西賞を受賞しました。本大会はワールドマスターズゲームズ2021関西を盛り上げる、新鮮で柔軟なアイデアを全国の大学から募った学生コンペで、本年で第5回目となります。

Sports

チアダンス 世界大会銀メダル!

2018年10月6日にポーランドで開催された「第1回 FISU世界大学チアリーディング選手権大会」のCheer Pom Doubles部門に、本学チアリーダー部から高山あか理さんと五嶋友加里さんが日本代表として出場し、見事銀メダルを獲得しました! 両選手のインタビュー動画もぜひご覧ください!

Event

成人式二次会を開催!

2019年2月7日(木)に、学校では教えてくれない大人の世界! をコンセプトに大学卒業後に出会うであろう事柄を学べるイベント「成人式二次会」を開催。

当日は106名の学生が参加し、「結婚のリアル」「大人のお金の話」「給与明細の見方」「ブラック企業との戦い方」など、様々なテーマの講演が行なわれました。実際に参加した学生からは「普段聞けない話を聞くことができ、ためになった」「とても勉強になった。考え方が変わった。」と、満足の声を聞くことができました。

Topics

追手門学院記章が完成

追手門学院創立130周年を記念して、世界的なファッションデザイナーであり、本学客員教授のコシノヒロコ氏のデザインによる追手門学院記章を制作しました。追手門学院伝統の「桜」と永久・無限を象徴する「メビウスの輪」を融合させたデザインで、2019年度より、学院教職員が着用します。

Sports

2年連続なでしこリーガー誕生

2019年3月に社会学部を卒業した女子サッカー部の坂田絵里(さかた・えり)選手が、日本女子サッカーリーグ(なでしこリーグ)2部のASハリマアルビオンに、川相愛里(かわい・あいり)選手が、チャレンジリーグ所属のNGUラブリッジ名古屋に入団しました。両名は女子サッカー部の中心選手として、第27回全日本大学女子サッカー選手権大会(インカレ)においてチーム史上最高位のベスト8への躍進にも貢献しました。追手門学院大学からは、昨年、岡山湯郷Belleに入団した佐喜眞選手に続き2年連続でなでしこリーグ選手が誕生することとなりました。

坂田絵里(さかた・えり)選手

川相愛里(かわい・あいり)選手

Sports

国体で女子ラグビー部が大阪代表として優勝

福井国体のラグビーフットボール競技女子(7人制)に大阪府代表として、追手門学院大学及び追手門学院高等学校の女子ラグビー部から10名の選手が選出され、2018年10月3日〜4日の2日間にわたって開催された大会で、大阪府代表が見事優勝を飾りました。

Award

国際公共経済学会 学会賞

藤原直樹(地域創造学部／准教授)

国際公共経済に関する若手研究者の学術的研究を奨励するため、若手研究者の学術書・研究書を対象に創設された賞で、今年度は藤原准教授の著書『グローバル化時代の地方自治体産業政策』(2018年2月刊行／追手門学院大学出版会)が選定されました。

授与元／国際公共経済学会(2018年12月)

連携協定

茨木市議会と連携協力に関する協定を締結

2019年1月30日に茨木市議会と「茨木市議会と追手門学院大学との連携協力に関する協定」を締結しました。議会の政策立案機能の強化に向けた協力を行うとともに、地域の「学びなおし」や「交流」の場を提供するなど、積極的な取組を推進します。

ANAビジネスソリューション株式会社と教育連携協定を締結

2018年12月17日にANAエアラインスクールを運営する、ANAビジネスソリューション株式会社と航空業界に対する理解の促進や受講を希望する学生の支援強化を目的とした教育連携協定を締結しました。大学での学びに加え、エアラインスクールでの実践的な学びを通じて社会で活躍できる人材の育成に取り組みます。

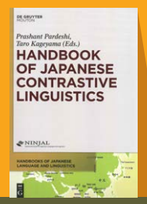
BOOKS [追手門学院大学・教員の著書(五十音順)]

※教員の所属学部は2019年4月1日時点のものです

生活環境主義のコミュニティ分析
環境社会学のアプローチ
足立重和(社会学部)共著
2018年10月／ミネルヴァ書房

スポーツガバナンスとマネジメント
上田滋夢(社会学部)共著
2018年8月／晃洋書房

漢語語法的語義和形式
木村英樹(国際教養学部)著
2018年9月／商務印書館



Handbook of Japanese Contrastive Linguistics
木村英樹(国際教養学部)共著
2018年2月／DE GRUYTER MOUTON

食から描くインド
近現代の社会変容とアイデンティティ
小松久恵(国際教養学部)共著
2019年2月／春風社

2018証券アナリスト第2次レベルテキスト
市場と経済の分析
第6回 国際経済・金融の諸問題
櫻庭千尋(経済学部)著
2019年2月／日本証券アナリスト協会

新時代のキャリア教育と職業指導
免許法改定に対応して
佐々木英一(社会学部)共著
2018年9月／法律文化社

僕らの哲学的対話
棋士と哲学者
戸谷洋志(基盤教育機構)共著
2018年12月／イースト・プレス